氏名	北村　斉
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第137号
学位授与の日付	昭和40年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	**大量輸血に伴う血小板数減少に関する臨床的並びに実験的研究特に血小板塊形成因子について**
論文審査委員	教授 砂田輝武　教授 田中早苗　教授 妹尾左知丸

学位論文内容の要旨

著者は，保存血大量輸血時の血小板数減少の成因について追求中，1958年，保存血大量輸血受血者の血漿中に血小板塊が頻回に現れることを発見し，この血小板塊形成因子の本態について臨床的並びに実験的に研究し，次のごとき結論をえた。

保存血大量輸血者血漿中に血小板塊形成因子のあることを発見した。この因子は輸注されたものではなく，輸血により受血者血漿中に発生したヘパリン様物質が主体であって，抗原抗体反応と直接関係のない，一過性かつ可逆性の血小板塊を形成することを証明した。かくして生じた血小板塊は，肝，脾，肺，骨髄に抑留され，血小板の体内分布異常がおこり，末梢血中においては著明な血小板数減少が発生するに至るものと推察された。

論文審査の結果の要旨

北村斉提出の「大量輸血に伴う血小板数減少に関する臨床的並びに実験的研究，とくに血小板塊形成因子について」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は，次の通りである。

保存血大量輸血時にみられる著明な変化の一つとして血小板数の減少があげられ，これが保存血大量輸血に伴う出血傾向の大きな原因をなすものと考えられるが，その高度な血小板数減少の機序については未だ明確な説がない。著者はその成因を追求中1958年保存血大量輸血受血者の血漿中に血小板塊の頻回に現われることを発見し，この血小板塊形成因子の本態について種々検討を行った。その結果この血小板塊形成因子は輸注されたものでなく，輸血により増加する流血中のヘパリン様物質が主体であって，抗原抗体反応と直接関係がなくまた血液凝固因子，血清電解質，ＰＨ，陽イオンとの関係もほとんどなく，この血小板塊形成は一過性かつ可逆性のものであることを認めた。かくして生じた血小板塊は肝，脾，肺，骨髄に抑留され，血小板の体内分布異常がおこり，末梢血中においては著明な血小板数減少が発生するに至るものと推察した。副腎皮質ホルモンがこの現象をある程度抑制することをあわせみとめた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。